

保護も奨励も受けずして行はれたに過ぎず、到底著しき發達を遂ぐべき境遇には置かれてゐなかつた。元代文學の特長として、高雅なる詩文の隆昌する代りに、平民文學として戯曲の著しき發達を見たのも、かゝる情態に起因するものと考へねばならぬ。

### 蒙古族が固有文化を保持したる所以

蒙古族が従來の例に似ず、漢文化に對する態度においてかゝる異つた方針を採るに至つたのは如何なる事情によるのであらうか。彼等の武力による大成功から導かれた民族的自負傲慢の心が、最後まで彼等に抗爭した漢人南人に對して憎惡となり壓迫となり、延いて漢文明にも及んだのであると一面からは考へ得られるかも知れないが、かかる事情は契丹・女眞族と漢族との關係においてもほとゞ同様であつて、獨りこの場合に限るべきことではない。

しかるに兩者の漢文化に對する有様は大に趣を異にすること前來說くが如くであつて見れば、別に理由を捜求しなればならぬ。思ふにこれについて最も重要視されなければならぬのは、蒙古族の接觸した世界が契丹・女眞等に比して甚だ廣く、早くから諸方の優秀文化と接觸してゐたことである。契丹・女眞をはじめその他附近の民族にとつては、凡そ高尚な文化といへば漢文化以外にはまづ無かつたといつてよいのであつて、従つて自からの文化を高めるといふことは、たとへ武力では壓迫してもその壓迫した漢族の文化に近づき同化することより外には無かつたのである。

しかるに蒙古族においては漢土を併有する以前に、既に西藏文化にも、ペルシャ文化にも、印度文化にも、更に